

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870600384		
法人名	株式会社 コモドヴィータ		
事業所名	コモドヴィータ下館	ユニット名	すずらん
所在地	〒308-0841 茨城県筑西市二木成1530		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0870600384-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年12月19日	評価確定日	平成25年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者の認知症の症状の進行を緩和し、安心して日常生活をおくることができるよう、利用者の心身の状況を踏まえ、妥当適切に行います。</p> <p>また、利用者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して行います。</p> <p>なお、介護従業者は、サービスの提供に当たっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行います。</p> <p>サービスの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わないようにしています。</p> <p>事業者自らその提供するサービスの質の評価を行い、常にその改善を図るものとしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は徒歩圏内にJRの駅や公園、商業施設がある住宅街の一角にあり、隣地が病院で住環境に恵まれている。</p> <p>有料老人ホームや短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所を併設しており、合同でイベントを実施したり、ボランティアの受け入れの共有、機械浴槽利用など、併設事業所の機能や設備を活用して多機能的にサービスの提供を実現している。</p> <p>職員の採用時から事業所理念や職員の行動指針、サービスの手順、職務分掌等が網羅された事業所の基本マニュアルを基に計画的に研修を行い、職員の育成に取り組んでいる。</p> <p>尺八、そろばん、読み聞かせ、ギター、三味線など多種多様なボランティアを受け入れて利用者との交流を図り、利用者の余暇時間の充実に役立っている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本マニュアルに添って職員全員が勉強している。毎日、出勤時には理念を全員で唱和している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をスタッフルームのドアに掲示するとともに、職員は出勤時に理念を音読して確認し、実践に努めている。 新人職員に対しては理念や職務分掌などをまとめた基本マニュアルを使用して新人研修を実施し、その中で理念の実践に向けた研修をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の床屋さんのボランティアにより男性の利用者様が散髪していただいている。デイサービスを併設しているため毎日いろいろなボランティアの方々が来て下さっており参加できる時は参加をしている。	年2回利用者の家族等や地域の人々、高校生のボランティアの参加を得て実施している「コモド祭り」では模擬店が出たり、ボランティアによる子ども太鼓の演奏やよさこい踊りなどが披露され、利用者は地域の人々と交流している。 利用者は近隣の小学校から運動会の招待を受けて見学に出かけたり、地域の文化祭に書道や写真、貼り絵などの作品を出展して見物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の商店へ買い物に出かけたり、公園へ散歩に出かけた時に近所の方に挨拶して、交流のきっかけ作りに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、入居者様やご家族様、地域の方々に参加して頂き、日々の活動内容を紹介したり、レクリエーションにも参加して頂き、意見交換や交流の向上に努めている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域住民の代表、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では各ユニットから毎月の活動報告やボランティアの活動状況を報告しているほか、今後の行事予定を紹介して地域住民に参加を依頼している。 運営推進会議は運動会などの事業所の行事に合わせて実施し、事業所への理解と利用者との交流を図っている。 地域住民の代表委員から近隣の小学校を紹介してもらい、運動会の見学が実現している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の担当者参加して頂いて、市の情報などの提供を受けている。	運営推進会議に市担当者が出席しており、事業所の活動状況を報告したり、空き室がある時は相談している。 管理者は事業所内の事故について市担当者を訪問して事故報告を行い、対応や再発防止について相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来るだけ身体拘束をしないケアをめざしている。しかし、危険防止のためにやむを得ない場合は家族と相談し、その弊害を説明して納得の上支援している。	毎月のユニット会議や勉強会で身体拘束をしないケアについて話し合い、職員は正しく内容を理解して支援に努めている。 身体拘束抑制委員会で日々の支援の内容について、身体拘束になっていないかチェックを行っている。 車いすのすり落ち防止のためV字ベルトを着用しているケースが有るが、1週間に1度経過記録を記入したり、必要性を検討している。	身体拘束の必要性の評価を定期的実施しているが、身体拘束については切迫性、非代替性、一時性の視点を持ち、身体拘束をしないケアの実践に努めることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員会で、入居者様への対応などを良く話し合っており、虐待防止に努めている。職員の言葉使いなど、日常生活の中で細心の注意を払い、虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者が認知症介護実践者研修に参加しフロア会議の勉強会で制度の理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する書類を提示し説明をしている。ご家族様の不安や疑問点をお聞きし、十分な説明を行い、理解納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が、ご意見や不満等を言える環境づくりに努め、苦情があった場合は、速やかに管理者へ報告している。また家族面会時に要望や苦情などを聞くようにしている。	職員は利用者との日常の会話を通して意見や要望を聴いている。 家族等からは面会時などに意見や要望を聴き、出た意見等を運営に反映させている。 意見や要望を汲み上げるため、年1回無記名の家族アンケートを実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議を月一回開催し意見や提案を出し合い、話し合っている。職員の意見を吸い上げて、毎月の運営会議に意見を述べるようにしている。又、施設長は職員からのメールに対応し、いつでも意見を聞いている。	月1回ユニット会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、各ユニットの代表者が参加する運営会議で職員の意見等を検討している。 年2回人事異動があったが、職員から「利用者との関係性の面から見直してほしい」との意見が出され、人事異動が年1回になるなど、出た意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者が馴染みの管理者や職員による支援が受けられることを重視している。年二回の職場移動があり、移動になった職員は職場環境の変化に対応する努力をしている。代表者は職員各自が向上心を持って働けるよう職場環境等の条件の整備に努めてほしい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は新たにトレーナーとOJTを育成し職員を育てる取組みを行っている。又、法人内の勉強会は月一回、フロア内の勉強会も月一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平成22年、23年は活発に行っていたが、今年は相手方との調整不一致のため実施することが出来なかったため、今後は復活させて行きたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調に関しては看護部長、介護部長、管理者又は介護員が行い、見学については事務局の部長が行っている。入居後、本人の不安や要望は、コミュニケーションを図り、良く聞く機会を作り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと等、要望に耳を傾け、入居後もこれらのことから良く聞く機会を作り、相談にのっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を良く聞き、要望をもとに、必要としている支援を見極め、サービス利用の調整を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意な事などをお聞きし、共に楽しく過ごせる環境作りに努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も頻繁にあり、協力して頂きながら、本人の生活を共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、又、身内だけの方しか解らない利用者様もいるが、馴染みの知人や、友人の方にも気軽に会いに来て頂けるような環境作りをしたい。	利用者の家族等や親戚、知人が来訪した時にはゆっくり話ができるような環境をつくり、関係が継続できるよう支援している。 自宅に帰宅して地元の老人会に参加するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。 職員は利用者が馴染みの美容室を継続して利用できるよう送迎をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立せずに支え合って共同生活ができるように支援して行きたい。フロアに置いてあるソファなども、憩いの場となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに継続的な関わりを必要とした利用者や家族がいない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人のその時その時の希望に添えるよう心がけ、出来るだけ本人ためになるような支援をしていきたい。	職員は日常の会話の中から利用者の思いや希望を聴いてニーズシートにまとめ、できるだけ希望にそえるよう支援に努めている。 意思表示の難しい利用者についてもニーズシートを使用し、家族等の意見も取り入れて利用者本位に検討している。 職員は日々把握した利用者の思いや意向を申し送りノートに記入し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様より生活歴等を伺い、本人の希望に近づけるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方をよく観察して、職員全員が現状を良く理解し、本人の出来ること支援して行く。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的、又は、必要に応じて開き、本人、家族、チームのメンバーでよく話し合い介護計画を作っている。又、モニタリングは二ヶ月に一回実行している。	日常生活の中で知った利用者の意見や家族等の来訪時に聴いた意見を職員で出し合い、ニーズシートを活用して介護計画を作成している。 定期的にモニタリングを行い、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じたり、ニーズシートを活用し出来る限り柔軟な支援やサービスが提供できるよう心がけている。例えば、足のむくみが気になる時はリンパマッサージの”癒しの手”を利用したり、機能訓練士による下肢筋力のリハビリを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々に来て頂いたり、コモド祭りに地域も方々にも参加して頂いている。また、消防訓練時に消防署の協力を得たりしながら地域資源との協働を計っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談し、希望を大切にして、本人の安心できる医者をおかかりつけ医としている。又、病状により必要な診療科目の受診も支援している。	利用者や家族等の希望にそってかかりつけ医を決め、通院には家族等が同行しているが、家族等から依頼があれば職員が同行している。 適切な医療が受けられるよう定期的な訪問診療や必要に応じて随時の往診が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員に報告・連絡・相談等を申し送る。NSノートを活用している。看護職員へは気になる症状や発熱時すぐに報告し指示をもらい対応している。毎朝、利用者様のバイタルを確認してもらい日常の健康管理等の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様と相談の上調整している。入院時には介護サマリーを提出しており、退院後の指導も病院から受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護に関しては家族やかかりつけ医、看護職員と今まで以上に慎重に打ち合わせの上行って行く必要がある。	「重度化した場合における（看取り）指針」を作成し、入居時に利用者や家族等に事業所の方針を説明している。 看取りの段階に入ったら、家族等に事業所の体制を含めた看取りの指針を説明して同意を得ている。 現在看取り介護を実施しており、昼間は看護職員が中心に支援しているほか、協力医療機関と24時間オンコール体制が整っており、利用者や家族等、職員の安心につながっている。	更に職員の不安が軽減されるよう、今後も看取り介護の研修を継続して実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応の勉強会を常日頃から開いており、外部の研修会（消防署でのAED講習会）にも参加している。看護師からは吸引ノズルの使い方を教えてもらい、応急手当や急変時の対応の勉強会にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は現状では十分とは言えないが、尚一層これを徹底していく必要がある。	年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署立会いの避難訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練を実施したり、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成しているが、反省点や課題について話し合うまでには至っていない。 災害に備えて敷地内にある同一法人の他事業所で多めに備蓄をしているが、事業所独自に備蓄するまでには至っていない。	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、運営推進会議の委員の協力を得ながら、避難訓練に地域住民の参加が得られるよう働きかけることを期待する。 避難訓練終了後は反省点や課題について話し合い、記録に残すことを期待する。 災害に備えて事業所独自に備蓄することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の調子、態度についての注意を怠らないようスタッフ会議で注意しあっている。	職員はユニット会議で利用者への言葉遣いや声の調子、態度について話し合い、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない支援を心がけている。 接遇委員会を設置し、職員の言葉遣いなどを日常的にチェックしている。 事業所便りへの写真の掲載など個人情報の使用に関しては、利用者や家族等全員から同意を得ている。 個人情報に関する書類は、スタッフルームの書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見をはっきり言える方が増え、必ず本人の思いや希望を聞いて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、一人一人の希望に添えるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人と相談し決めている。 理美容は、本人と家族にお聞きし利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日三食のメニューを掲示し、その都度、時と食事内容を説明している。その人に合わせて美味しく食事が摂れるような声掛けをしている。	毎食の献立を大きく表示するとともに、職員は利用者に献立を説明し、美味しく食事ができるよう支援している。利用者は能力に応じてテーブル拭きや下膳を担っている。毎月行事食や選択メニューを実施している。食事は併設する有料老人ホームで業者がまとめて作っており、職員は給食委員会を通じて減塩や糖尿病食、味付けなどの意見を業者に伝え、食事内容の改善に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、一日量をチェックし、栄養摂取については厨房の栄養士が管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人を洗面台に誘導し、うがい、歯磨きの口腔ケアを実行し、義歯は、毎晩、洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	意思表示が難しい人には定期的な声掛けを行ったり、できる人には可能な限りトイレへ誘導し排泄介助を行っている。	職員は利用者の排泄に関する自立度を把握しており、一人ひとりに応じた声かけを行っている。トイレで排泄するためベッドから立ち上がり、トイレへ移動するという一連の行動がリハビリテーションになり、おむつを着用していた利用者がリハビリパンツに移行するなど改善している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、リハビリ体操・タオル体操を行い、10時と15時はお茶の時間にしまた食事の時も水分を多く摂れるようにしている。便秘3日目には看護師に報告をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	少人数のためゆっくりと入浴して頂くようにしており、少なくとも週2回は湯船に入れるように支援している。	週2回の入浴を基本としているが、希望にそった入浴も可能となっている。入浴のない日には足浴を実施し、足のむくみ防止に効果をあげている。入浴を拒む利用者には午前と午後で声かけをしたり、声をかける職員を替えて誘導し、無理なく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員との会話を楽しんで頂いたり、気ままにテレビを見たり、横になって寛いでいただけるよう支援している。又、夜休まれない方には、お話をお聞きしたり、暖かいお茶を飲んで頂き、安眠へとお誘いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行い、看護師の指示のもと飲み忘れや誤薬がないよう職員同士で日付、いつ、名前を声に出し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとのできる人にはなるべく本人の希望が実現できるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力なども得て、散歩や、買い物、ドライブにも出来るだけ出掛けられるように支援している。	天候に応じて近くの公園に散歩に出かけたり、年間の外出計画を立てて花見やぶどう狩り、菊祭りなど、外出の機会をつくっている。 利用者一人ひとりの買い物や外出の希望には、家族等の協力を得ながら希望にそえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーションで金額を決め、自分で買い物を楽しんでもらえるようにしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状では、利用者様の要望があまりないが、要望がある場合は取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間をできるだけ居心地良く過ごせるように、室温、雑音、光線などの調整に配慮している。	居間兼食堂にはテレビの周りに大きなソファが備えられ、ゆっくり寛げる空間となっている。 車いすを使用している利用者が多いなど、ユニット毎の利用者の特徴を考慮し、テーブルやソファの配置を工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同志が楽しくお話できるような居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や、生活用品を持ち込まれている方もいるが、けがをしたり、事故に繋がらないように最大の配慮をしている。	居室にはベッドやエアコン、物入れが備え付けられている。 利用者は使い慣れた机や椅子、整理筆筒を持参して居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 居室のフローリングの上に絨毯を敷いて布団で寝起きをするなど、利用者の好みや安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、歩行困難な方には歩行介助をしたり、車椅子使用の方にはその方の能力に合わせた対応をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 コモドヴィータ下館

作成日 平成25年2月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の必要性の評価を定期的実施しているが、身体拘束については切迫性、非代替性、一時性の視点を持ち、身体拘束をしないケアの実践に努めること。	身体拘束をしないケアの実践に努めます。	1. 1週間毎にモニタリングを行い身体拘束の必要性を検討する。 2. カンファレンスを行いモニタリングを基に職員で再検討する。 3. 抑制廃止委員会で報告する。	6ヶ月
2	33	職員の不安が軽減されるよう、今後も看取り介護の研修を継続して実施すること。	研修を継続して実施します。	1. 外部講師による研修を受ける。 2. コモドヴィータ下館の看取りの書類を基に具体的にフロア勉強会で習得する。	6ヶ月
3	35	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、運営推進会議の委員の協力を得ながら、避難訓練に地域住民の参加が得られるよう働きかけること。避難訓練終了後は反省点や課題について話し合い、記録に残すこと。災害に備えて事業所独自に備蓄すること。	避難訓練に地域住民の参加が得られるよう働きかけます。反省点や課題について話し合い、記録に残します。災害に備えて事業所独自に備蓄します。	1. 夜間の緊急を想定した電話連絡の実施。 2. 消防訓練時、近隣住民への参加声かけを実施する。 3. すでに備蓄してある非常食の試食会を実施し、同様の物を補充する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。